

会派行政視察報告書

会派行政視察の調査結果について、下記の通り報告します。

令和5年2月10日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会会派 かいこう

代表者 森戸芳史


議員 小林隆司

議員 早稲田真弓

記

- 1 調査年月日 令和5年1月27日（金） 13:30～15:00
- 2 調査市等 周南東部環境施設組合 リサイクルセンター「エコぱーく」
- 3 調査結果 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和5年1月27日（金） 13：30～15：00	
調査市等	周南東部環境施設組合 リサイクルセンター「えこぱーく」	
調査事項	組合の運営状況の把握と施設の現状確認	
説明者	周南東部環境施設組合 福田事務局長	

〈概要〉

周南東部環境施設組合は、昭和54年6月に組合を設立して以来、光市と下松市の家庭から出る不燃ごみの適正処理、ならびに施設の維持管理を行っている。リサイクルセンター「えこぱーく」（以下「えこぱーく」という。）は事業費約22億円で建設され、平成20年2月に完成し、平成20年4月から稼働している。この施設が出来るまでは、粗大金属類やビン類・缶類の資源ごみ以外は後畑不燃物処理場においてすべて埋立処分されていた。しかしながら、埋立処理場にも限りがあり、また循環型社会の形成の促進のため、埋立処分されているごみのうち最も量が多いプラスチック類をリサイクルすることで、埋立処分場の延命化を図っている。

後畑不燃物処理場は昭和58年から運用を開始し、これまでに第1期～3期と建設され、1期は平成4年に満杯となり、現在、2期と3期を併用して使用している。机上計算ではあるが、令和28年までは使用できる見込みである。こうした状況を踏まえ、埋立地の延命を図るため、平成25年度から「再処理引き取り業務」を開始した。これは埋立処分されたプラスチック類を掘り起こし、サーマルリサイクル用として年間約800tを目標に搬出している。また、各処理工程から出る^{ざんさ}残渣についてもサーマルリサイクルとして搬出している。さらに浸出水処理施設では、埋立地に降った雨は一括管理し、薬剤やろ過装置で処理し、川に流している。



過去5年間の不燃ごみの処理状況は、年間約6000t～6500tが搬入され、リサイクル率は70.88%となっている。えこぱーくに搬入される不燃ごみのうち約27%を占める黄色のごみ袋の中に、乾電池やライター、かみそり、びん類や汚れた物などが混ざっており、委託業者が手作業で除去している。また、周南東部環境施設組合では年1回、プラスチック容器包装の組成調査を実施しており、これは各地域から搬入された黄色の袋から100袋を抜き取り中身を調査している。

周南東部環境施設組合の年間の事業規模は6億8955万円で、施設の管理運営費は5億4303万円、負担内訳は光市2億4965万円、下松市2億9337万円（人口割とゴミ搬入割で按分）となっている。

〈課題〉

- 再処理引き取り業務を実施しているものの、埋立処分場の延命化が大きな課題である。
- 仮に新たな埋立処分場を選定する場合、多大な時間を要することが想定される。

〈所感〉

- 市民のゴミ分別の大変さと埋立処分場の容量をどのように折り合いをつけていくかが課題である。自治会等から「適正に分別されないごみの仕分けが大きな負担となっている」との声が数多くあがっていることを踏まえ、ごみ処理の現状をより多くの市民に知っていただくことを念頭に、エコぱーくの見学や分別体験を推奨していきたい。
- ゴミの仕分けに係る手選別作業について、安全・衛生のさらなる充実や生産性向上を図るための検討が必要と考える。
- ペットボトル等の製造者に対し、ラベルレスをはじめとする分別が容易なボトルの開発を求めていく必要がある。

